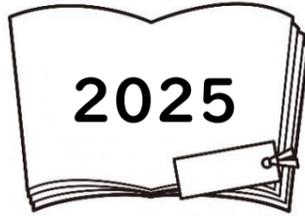


としょかん
へきなんの図書館がすすめる
なつやす ほん
夏休みの本

ねんせいむ
(3・4年生向き)



としょかん ほんかん ぶんかん
図書館(本館・分館)におすすめの本のコーナーが作ってあります。ぜひ、見てみてね!
かしだしちゅう ほん よやく
貸出中の本は予約ができます。(借りられるようになったら連絡します。)

せんせい かんそうぶん か
『先生、感想文、書けません!』

山本 悦子/作 童心社 (913ヤ・セ)

なつやす とうこうび
夏休みの登校日に、みずかは感想文を出せませんでした。本をよんでおもしろかったと思っても、感想文を書こうとするとその気持ちが消えてしまうからです。みずかは先生と9月1日に感想文を出す約束をしましたが、こまります。でも、いいことを思いついて…。



きよせきうばん うみ おおさかじょう
『巨石運搬! 海をこえて大阪城へ』

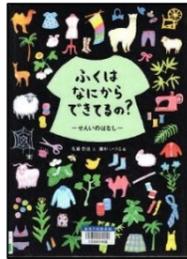
鎌田 歩/作 アリス館 (Eカ・キ)



せとないかい しま いしく
瀬戸内海の島から、石工たちが力をあわせて切り出した巨大な石。この石を大阪のお城まではこびます。さて、どうやってはこぶのでしょうか?

『ふくはなにからできてるの? せんいのはなし』

佐藤 哲也/文 網中 いづる/絵
福音館書店 (Eア・フ)



ふくを作っている布は、いろいろなものの「せんい」からできています。どんなせんいがあるのか、ふくについているタグを見てみましょう。

『すごい!ミミックメーカー』

クリステン・ノードストロム/文 ポール・ボストン/絵
西村書店 (Eボ・ス)



「カワセミから新幹線」、「葉っぱから太陽電池」など、生き物や自然のすぐれたところをまねして、すばらしい発明品を作った「ミミックメーカー」たちを紹介する。

『なきむしせいとく』

おきなわせん しょうねん ものがたり
沖縄戦にまきこまれた少年の物語』

たじま ゆきひこ/作 童心社 (Eナ)

1945年の沖縄。2年生のせいとくは、戦争のはげしい攻撃の中を、お母さんと妹と必死ににげますが…。沖縄の戦争の悲惨な様子を伝える絵本です。



『なんでもただ会社』

ニコラ・ド・イルシング/作 日本標準 (953イ・ナ)

ある日、ティエリーがいたずら電話をしたら、「なんでもただ会社」につながりました。この会社は、ほしいものを一日一つ、ただで注文できる会社でしたが、やぶると大変なことになる規則がありました。ティエリーは注文を続けていきますが…。



『うちのキチント星人』

佐藤 まどか/作 フレーベル館 (913サ・ウ)

しんせきのあつくんが、千歌の家で暮らすことになりました。でも、あつくんは、ぶどうをナイフとフォークで食べたり、魚の骨を全部取ったりして、いろいろなことにすぐ時間をかけるので、千歌はつかれてしまいます。



『本おじさんのまちかど図書館』

ウマ・クリシュナズワミー/作 フレーベル館 (933ク・ホ)

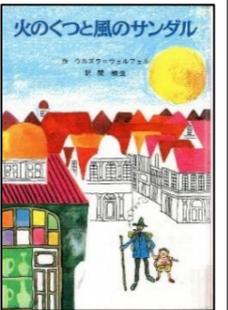
ヤズミンは、本おじさんがしている「まちかど図書館」が大好きで、毎日、本を借りていました。でもある日、市から通知がきて、おじさんは図書館を続けられなくなってしまいます。ヤズミンは何とかして、おじさんを助けようとしてみますが…。



『火のくつと風のサンダル』

ウルズラ=ウェルフェル/作 童話館出版 (943ヴ・ヒ)

デブでちびのチムは、自分のことが大きらいで、他の男の子になりたいと思っています。そんなチムが夏休みに、お父さんと旅に出ました。チムはお父さんといろいろな話をしながら歩いていくうちに…。



『ふでばこのくにの冒険』

村上 いこ/作 童心社 (913ム・フ)

ママが出て行ってから、いじわるになってしまった修人。修人は、科学館で作った自分そっくりのフィギュアを、ママにわたしたいと思いますが、パパはゆるしてくれませんでした。すると次の日、そのフィギュアが動き始めます。



『貝のふしぎ発見記』

武田 晋一/写真・文 少年写真新聞社 (484カ)

大きな写真で、いろいろな貝の様子を紹介している本。貝たちのくらしは、ふしぎなことや、おもしろいことがいっぱい! それに、イカ、タコ、ナメクジ、クリオネも、みんな貝の仲間なんだって! 貝殻はどうしたのかな?



『消えた図書室』

西村 友里/作 学研プラス (913ニ・キ)

夏休みの少し前に、優人のひいおばあちゃんが、「学校の図書室がなくなった」とい出した。数日前はちゃんとあったのに、なぜ? 優人が見に行ってみると、本当に図書室の本が運びだされていて…。



『ブラックホールってなんだろう?』

嶺重 慎/文 福音館書店 (443ブ)

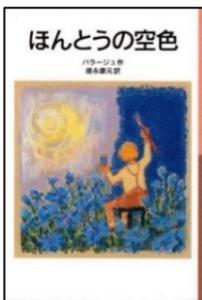
ブラックホールを知っていますか? ブラックホールは宇宙の中にある、なんでもすいこんでしまう天体です。なぜ、ブラックホールができるのでしょうか? ブラックホールのしくみや役割について、絵で説明しながら教えてくれる本です。



『ほんどうの空色』

パラージュ・ベーラ/作 岩波書店 (933バ・ホ)

貧乏な少年のフェルコーは、絵を描いてあげる約束をして、クラスの子の絵の具を借りましたが、あい色をなくしてしまいました。こまったフェルコーは、野原の花をしぼって作った青色で空を描きました。すると、その描いた空に、本物の太陽や月が輝くようになります。



『すごいゴミのはなし』

滝沢 秀一/文 学研プラス (518ス)

今、ゴミのいろいろな問題が起きています。ゴミ収集車が燃えたり、ゴミでいっぱいの場所ができていたり…。ゴミ問題を解決するには、どうしたらよいのでしょうか? お笑い芸人で、ゴミを回収する清掃員の仕事もしている著者が、ゴミのことをわかりやすく、楽しく紹介してくれます。

